

天文学とプラネタリウム

第82回



今月のお題

サイエンス銭湯

いま天ブラが目にするのは銭湯！
なぜいま銭湯なのか、その理由を語ります。

古星図グッズ、近々登場♪



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (台湾 中央研究院)

皆さんは「サイエンスカフェ」はご存じですか？講演会のようにえらい先生が壇上において、私たちは客席の方からほうほうすごいなあ話を聞くのではなく、街中の喫茶店のような気軽な場所で、コーヒー片手にゲストの方を囲んで親しくおしゃべりをする、というのが、一般的なサイエンスカフェです。「雀のがっこの先生が、むーちをふりふりちーぱっぱ♪」ではなく、「だーれが生徒か先生か♪」のメダカの学校をイメージしていただければ良いかも知れません。“先生”と“生徒”がフラットな関係であるのが、その特徴です。最近では全国各地で行われており、天文学をネタにしたものも少なくありません。星ナビ読者の皆さんの中でも、参加された方がいるかもしれませんね。

このコラムでも何回か取り上げてきたように、天ブラでもさまざまな形式のサイエンスカフェに挑んできました。しかし、世の中で流行すれば流行するほど、ふつうのサイエンスカフェをやりたくなくなるのが天ブラの天の邪鬼なところ。サイエンスカフェの理念を活かしつつ、な

にか天ブラならではのイベントはないものか…。そんなことを考えているときに行き当たったのが、銭湯です。古来より、銭湯は日本の社交場。西洋が喫茶店なら、日本は銭湯しかないではないか。名付けて、サイエンス銭湯。湯船に漂いながら宇宙を語るもよし、風呂上がりには牛乳片手に星空について語るもよし。男女別なのが残念なところですが、同性同士だからのこそ通じ合うところもあるかもしれません。

少し視点を広げると、銭湯が持つ価値の再評価が社会全体で進みつつあるように思えます。例えば、高齢者福祉のためのデイケアセンターを兼ねた銭湯や、喫茶店を併設した地域の交流機能を強化した銭湯、さらにはさまざまなイベントの会場として使われている銭湯など、多種多様な使われ方がなされています。高齢化社会、あるいは孤立化する日本社会において、地域コミュニティの要となる銭湯には大きなポテンシャルがあるのです。

天文学も、天文学単独での発展はあり得ません。社会の発展と天文学の発展が、ともに手を携え



親子向けの国立天文台見学会のひとつ。天ブラの面々が案内し、好評を博しました！よかった。

ていく形を作っていくかねばなりません。現代日本が抱えるさまざまな課題に、天文学の普及という私たちの課題をどう絡めていくか。そういった観点を意識しながら、天ブラの活動もデザインしていきたいものです。興味がある方、ぜひ一緒にいろいろやりましょう！